

障害児教材開発基礎論 2020/6/19

発表番号 17

知的障害「コミュニケーションの指導・支援」
～コミュニケーションボードを使って～

専攻科 204V9912 村上 里美

①対象児童の実態イメージ

- ・小学校2年生
- ・入学時より知的障害特別支援学級在籍
自閉スペクトラム症もあわせもつ
- ・発語はあるが、はっきりしないことが多い。
- ・ひらがな、カタカナはだいたい読める。1年生の漢字は少し読める。
- ・人と関わるが会話が成り立たないことがある。
- ・言われたこと、指示されたことが少しわかる。

→「すごろくチャレンジ!」 「ことばタイム」をやってみよう



②学習指導要領による位置づけ

【各教科等を合わせた指導の特徴と留意点】

ア 日常生活の指導

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものである。

日常生活の指導は、生活科を中心として、特別活動の〔学級活動〕など広範囲に、各教科等の内容が扱われる。それらは、例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的な生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において、習慣的に繰り返される、必要で基本的な内容である。

③学習指導要領による位置づけ

生活科 3 各段階の目標及び内容

(1) 2段階の目標と内容

イ 内容

オ 人との関わり

身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする事。

(イ) 身近な人との接し方などについて知ること。

【身近な人との関わり】：担任教師や友達の名前を言ったり、自分から「おはようございます」「さようなら」などの挨拶をしたりすることなどが大切である。また、教師等に見聞きしたことや遊んだことを話すことなども大切である。

【気持ちを伝える応対】：適切な場面で「ありがとう」や「ごめんなさい」などをできるだけ言葉で言うことが大切である。

④学習指導要領による位置づけ

国語科 3 各段階の目標及び内容

(2) 2段階の目標と内容

ア 目標

○2段階

(1) 目標

- ア **日常生活に必要な身近な言葉を身に付ける**とともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
- イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における**人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができる**ようにする。
- ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、**言葉でのやり取りと聞いたり伝えたりしようとする態度**を養う。

⑤学習指導要領による位置づけ

自立活動

6 コミュニケーション

児童実態より

- ・発語はあるが、意思表示などはっきりしないことが多い。
- ・人と関わるが会話が成り立たないことがある。

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容を表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑥学習指導要領による位置づけ

自立活動

6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意志のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることを意味している。

- ・コミュニケーションとは、人間が意志や感情などを相互に伝え合うことであり、その基礎能力として、相手に伝えようとする内容を広げ、伝えるための手段をはぐくんでいくこと大切である。
- ・知的障害のある幼児児童生徒の場合、自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりしてコミュニケーションが成立しにくいことがある。
- ・自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切なかかわりができるように指導することが大切。

コミュニケーションの基礎的能力に関する指導においては、一人一人の幼児児童生徒の実態に応じて、項目に加えて、「3 人間関係の形成」や「5 身体の動き」等の区分に示されている項目の中から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することが大切である。

⑦教材の目標と評価

今回は、「日常生活の指導」
「自立活動」
において活動することと設定します。

「すごろくチャレンジ!」

目標: すごろくゲームを使って人とやりとりをすることができる。

評価: ◎支援を受けながら参加し、指示されたことができる。
○支援を受けながら参加し、やりとりを見ることができる。



「ことばタイム」

目標: カードを見て、気持ちや体調の意思表示ができる。
カードの言葉を読んだり、動かしたりしながら、行動とつなげていくことができる。



評価: ◎カードの言葉がわかり、言葉で表出したり行動につなげたりすることができる。
○支援を受けながら、うなずいたり行動につなげたりすることができる。

⑧教材の準備

準備物

- ・A4マグネット付きホワイトボード
- ・マジックテープ^o (接着タイプ)
- ・クラフトボード
- ・カードリング
- ・マグネット
- ・マスキングテープ
- ・A4ラミネートシート
- ・イラスト絵カード (自閉症支援の絵カード情報とダウンロード 絵カードセンター より作成)

今回は百円ショップで購入
770円。
ホワイトボードとマジックテープ
以外は家、学校にあるものが
使えます。



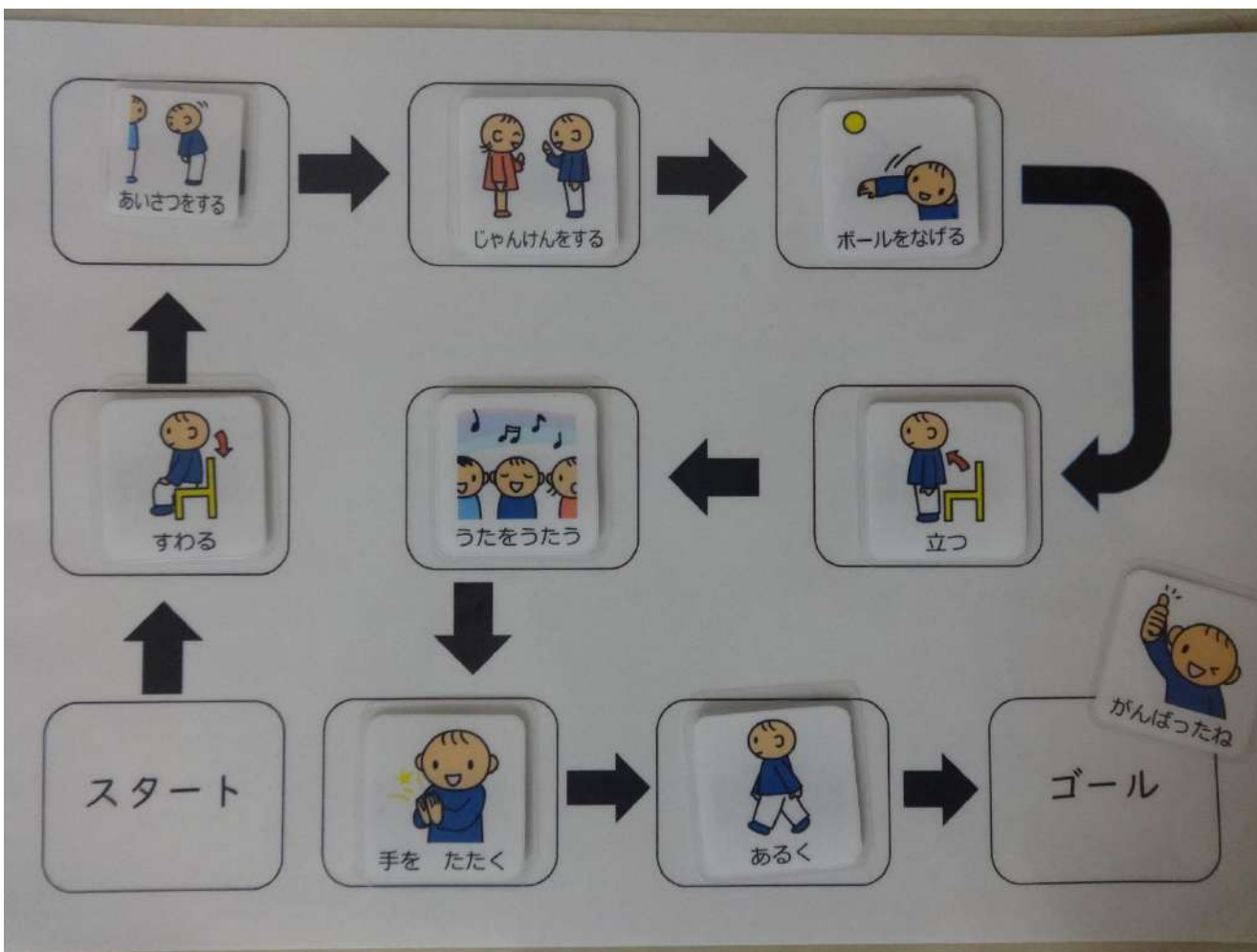
参考文献: 視覚シンボルで楽々コミュニケーション、視覚シンボルで楽々コミュニケーション おかわり2

- ・はさみ
- ・カッター
- ・工作マット

- 1、絵カードを印刷し、形に合わせて切る。
- 2、切ったカードをラミネートする。
- 3、形に合わせて切る。
- 4、裏にマグネットやマジックテープを貼る。



⑨教材の準備、使い方 すごろくチャレンジ!



準備

- ・すごろくシートを作る
- ・マスに児童の実態に合わせた活動カードを置く
- ・サイコロ、駒

3~4人で始める。

- ・サイコロを振って、出た目の数進む。
- ・止まったマスに書いてある指示をやる。
- ・まずは、支援者と一緒にやる。
- ・自分の駒以外の指示もしてよい。

⑩教材の準備、使い方 ことばタイム

準備

- ・ホワイトボードに絵カードを置く。
- ・行動カードを3つ選んで置く。



- ・絵カードを見て、支援者と一緒に読む。
- ・行動カードから適当なものを選ぶように伝える。
- ・選んだら取り出して、下に貼る。
- ・完成した文章を読み、実際にできることはやってみる。(真似る)

⑪教材の準備、使い方 ことばタイム

準備

- ・A4クラフトボードを半分に切る。
- ・台紙にマジックテープを貼る。



- ・体調などの絵カード集から一つ選ぶ。
- ・気持ちや体調を○か×を見たり、指をさしたりして答えることもできる。
- ・行動表現を練習することもできる。
- ・シートの入れかえもできるので、持ち運んで、指示にも使える。

⑫工夫と改善点

○工夫したところ

- ・小集団活動で使うもの、1対1で使うもの、一人学びで使えるのもと、活動場面に合わせて作成した。
- ・コミュニケーションボード(ことばタイム)は持ちやすい大きさに作成した。また、リングを使って折りたたみ、見せたい部分を強調できるようにした。
- ・意思表示は、○×を見ることから始めた。○と×のカードを離して置くことで、視線でも伝わるようにした。
- ・マジックテープは、外れにくく、持ち運びができる。

○改善点

- ・「ことばタイム」の言葉選びのカードを3択にしたが、適当だったか。
- ・使うこと前提で作成したが、使いたくなる導入についてはまた考えていきたい。